

目次

<対談>

- 新春の抱負を語る
— 1970年の県政展望 — 6
- 新・県計画のあらまし 13
- くまもとの花卉園芸 26
- 「武蔵ヶ丘」ニュータウンの開発 35

★ ここに人あり

水しぶきと情熱・渡辺千代松さん 25

県政

なんでも相談

- ・海外派遣農業青年 32
- ・保母の試験 33

★ 話のくずかご ★

他山の石・轟 周平 16

随想

水上 長吉・伴 征子・木下 サキ・島田 樟蔭・浜田 武男

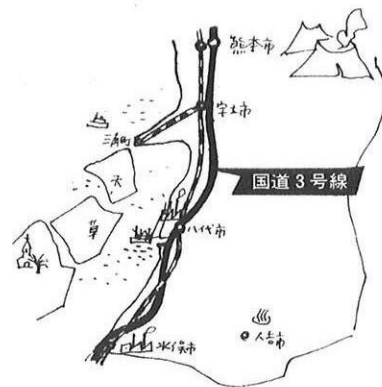
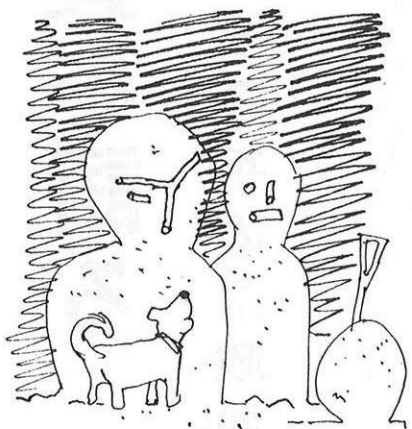
★ グラビヤページ ★

<特集> 空からこんにちわ

くまもとの特産— 肥後ぞうがん
ある青春・県政ハイライトほか

★ センターカラー 熊本市街展望

★ 表紙 八代港



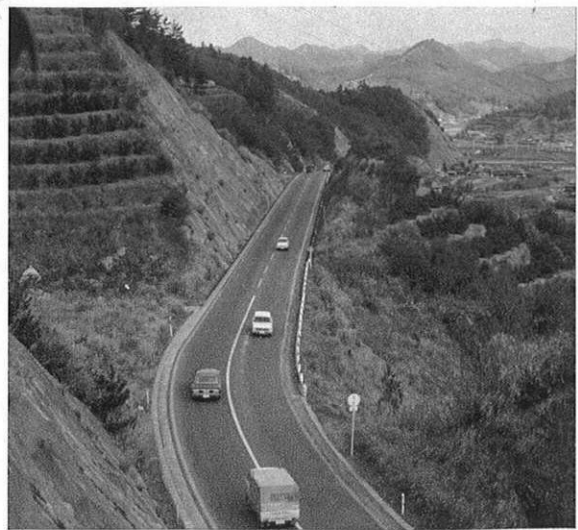
県南をひた走る大動脈

道ばたには、お地藏さんがめっきりふえていた。交通安全を祈ってたてられた“安全地藏”、でもあろうか。

県南部のルート3は、熊本市から水俣市の県境まで98kmにわたって走っている。熊本市近郊の都市型工場群を抜け、広々とした八代平野へ。緑のモザイク模様を描くイ草。白く光るビニールハウスの集団も印象的だ。その中を“彼”は背中を震わせて、絶えず車を運んでいる。昭和40年5月、三太郎国道全線開通。八代—水俣間の難所として、運転手泣かせであった三太郎の嶮に、今は3つのトンネルが通り、大型トラックも快速バスも、スイスイと走り抜けている。道が地域開発にもたらす効果を如実に示している。

このあたり、全国有数のみかん生産地帯。沿線を彩るオレンジ色がきれいだ。きょう出荷した甘夏ミカンは、ルート3を北上して、明日は関西の市場へ届くのである。今では芦北から大阪まで、24時間位で行けるのである。

沿線にかい間見る不知火海は静かで美しい。薄いあい色に浮かぶ天草島。波間にただよう漁船。芦北海岸県立公園の中を走る“彼”の背は、観光にも、大きな役割になっているのである。



▲三太郎の嶮も、今は快適なコースに、山肌のオレンジが美しい。



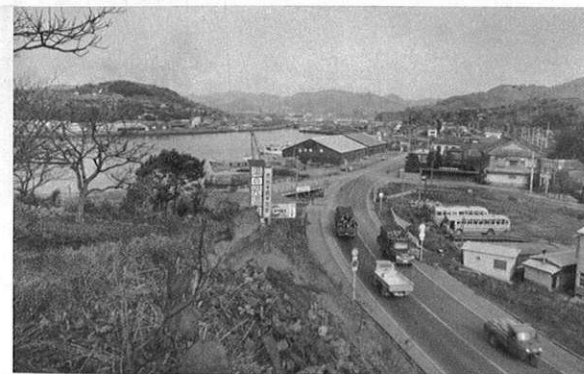
▲熊本市迎町交叉点。激しい車の流れの中を一路南へ。



▲八代平野にはイ草の田んぼが広がっている。



▲八代市では球磨川にかかる白鷺、夕葉の二つの橋を渡って。



▲ルートは水俣港のすぐ近くを通っている。